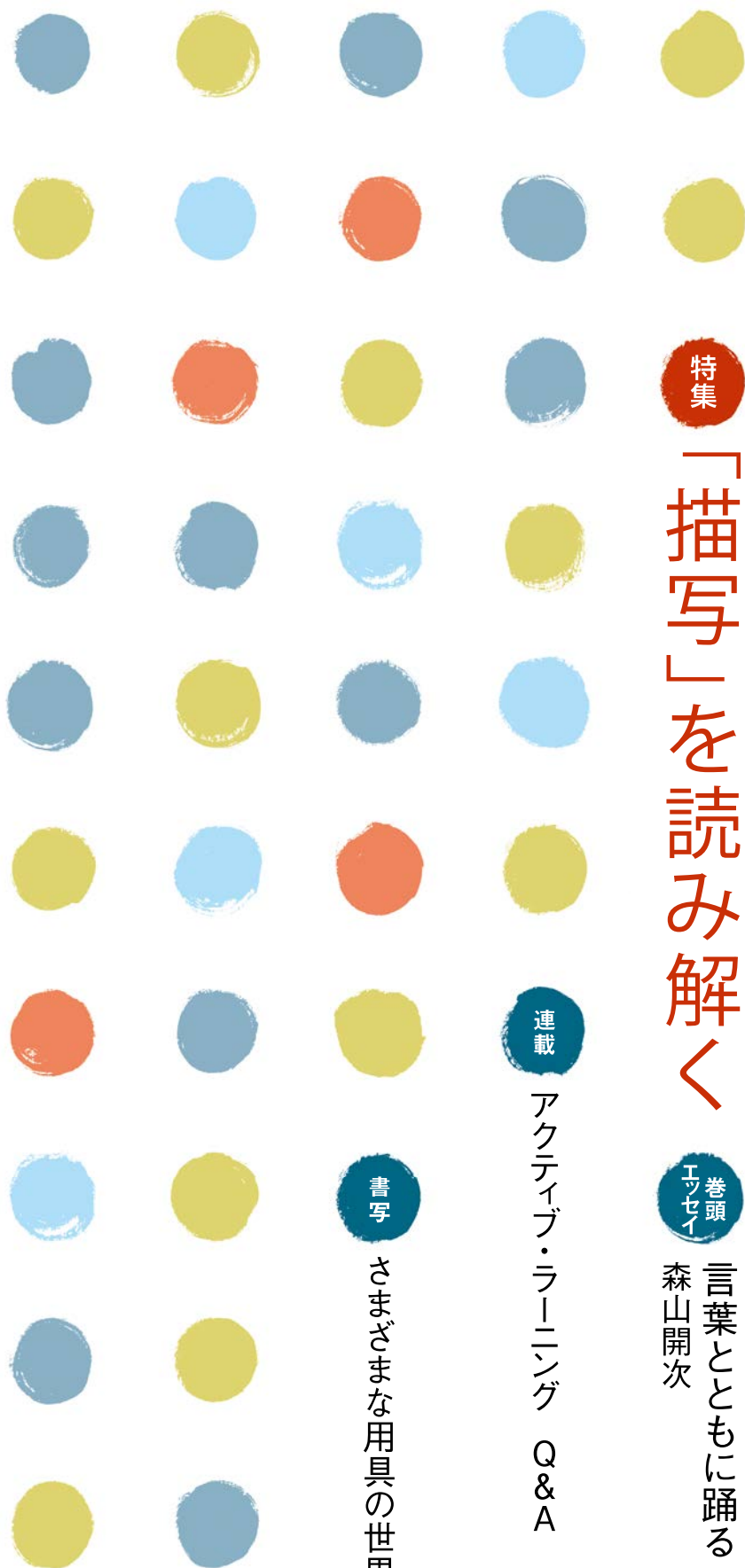


国語教育相談室

中学校
no.
79

光村図書



特集 「描写」を読み解く

巻頭
エッセイ
言葉とともに踊る
森山開次

連載 アクティブ・ラーニング Q & A

書写 さまざまな用具の世界

授業にデジタル教科書を！



光村のデジタル教科書がさらにパワーアップ！
国語, 英語, 美術の授業を強力にサポートします。

光村 デジタル 教科書

学校フリーライセンス

学校フリーライセンスとは、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

【指導者用】 光村「国語デジタル教科書」1～3年

DVD版	各 72,000円＋税	ダウンロード版	各 23,000円＋税
------	-------------	---------	-------------

【指導者用】 光村「英語デジタル教科書」1～3年

DVD版	各 75,000円＋税	ダウンロード版	各 24,000円＋税
------	-------------	---------	-------------

【指導者用】 光村「美術デジタル教材」わくわく美術室

DVD版 (1年契約版)	12,000円＋税	DVD版 (5年契約版)	50,000円＋税
-----------------	-----------	-----------------	-----------

体験版は Web サイトよりダウンロードすることができます
www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

CoNETS®
光村図書は、CoNETS (コネッツ) に
参画しています。

光村図書出版株式会社 www.mitsumura-tosho.co.jp
〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
TEL: 03-3493-2111 (代表) 03-3493-5741 (デジタル教材お客様窓口)
FAX: 03-6721-6884 E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.168 2016(平成28)年1月27日発行
発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝株式会社 加藤文明社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

え？ 見る事ができた？
エーミール！

ヘッセの『少年の日の思い出』は私も少年の日、国語の時間に読んだ思い出がある。エーミールという少年がなぜか深く心に残っている。「あらゆる点で模範少年」で「非の打ちどころがない」という悪徳をもっていた」と描かれている。「非の打ちどころがない」「ことが「悪徳」として描かれることに、衝撃と共感を覚えたものだ。

主人公の「僕」はそのエーミールの宝物のクジャクヤママユを衝動的に盗み出して、台無しにしてしまう。謝りに行った「僕」に対して、エーミールは、舌打ちをして（原文は「口笛を吹く」という動詞のようだが）、「そうかそうか、つまり君はそんなやつなんだな。」と言う。そして、「そのうえ、今日また、君がちょうをどんなに取りあつかっているか、というところを見ることができたぞ。」と言う。

知らないのだが、原文は、“Man (不定人称、ここではエーミール本人のいう) hat (完了) ja (yes) 相(相) heut (今日) wieder (再び) sehen (見る) können (出来る) , wie (どうか) du (おまえ) mit (with) 相(相) Schmetterlingen (蝶) umgehst (扱) ”。“また”だから以前見た時のこともふまえている。そして、“ja”という言葉があるが、これはすべて皮肉っぽい感じの用法という。そうした口ぶりが訳してある。

私は、この訳で使われている日本語の可能表現に立ち止まりたい。実は、日本語では、可能表現は普通イイコトに対して使う。ワルイコトについては言わない。例えば「会議で居眠りができた」など言えば、どうでもいい会議で居眠りをして睡眠不足を補ったといったイイコトになる。大切な会議なら可能表現は使わないで「居眠りをし

てしまった」と言つのだ。

だから「僕は太失敗ができた」なんて言わない。「おお、太りすぎて、ベルトをぶつちぎることができた！」などとも、言わない。

さて、せっかくの宝物が台無しにされたエーミール。でもその犯人は友人で謝りに来た。それに対しての言葉が「君がちょうをどんなに取りあつっているか、ということを見ることができたさ。」だ。可能表現だ。「見てしまった」とは言わない。そこにあるのは、愚かな奴ということがわかってよかったというニュアンス。実に冷たい軽蔑がある。

人間は愚かだ。ばかな失敗もする。でも、こう言われれば、「僕」は救われない。こゝを読む時、私は、「え?『見る』ことができた?……エーミール!『見てしまった』だろう、そこは!」と、思わずツッコんでしまうのだ。

CONTENTS

探検！言葉の森28	え？ 見ることもできた？ エーミール！	森山卓郎
巻頭エッセイ 言葉と向き合う	02 言葉とともに踊る	森山開次
特集	04 「描写」を読み解く	
	授業レポート「描写」を読み解き、自分の考えをもつ	港区立赤坂中学校
	授業を終えて	甲斐利恵子
	授業レポートを読んで	上谷順三郎
	参考図書のご紹介	
アクティブ・ラーニング Q&A 2	16 アクティブ・ラーニングで身につけさせたい力	富山哲也
書写の用具研究 番外編	18 さまざまな用具の世界	鳩居堂
	22 平成28年度版 学習指導書のご案内	

言葉とともに踊る

ダンサー・振付家

森山開次

踊りは、身体の動きですべてを表現する、言葉を発しない世界です。私は言葉の表現がとても苦手です。もつと上手に喋ることができたら。心のままを自然に伝えることができたらどんなによいか。言葉に乏しく、とっさに気の利いた言葉を使うことができない自分を、よく嘆き、日々反省してばかりいます。

内向的で口数の少なかった少年時代。人前で言葉を発すると極度の緊張状態になり、赤面し、想いを伝えることができませんでした。言葉により人間不信になってしまったこともあります。私がふり絞った言葉が誤解を招き、人を傷つけ、傷つけられたりし、自信を失う体験を多くしたからでしょう。長い間、言葉の魅力よりも、その窮屈さ歯痒さをより強く感じていました。特に言葉での自己表現にコンプレックスを持っていたのです。

そんな少年時代があったからこそ、踊りと出会ったとき、言葉のない身体表現

に猛烈に惹かれたのかもしれませんが。人の姿や体の動きが語るものが、どんなに綺麗な言葉より信じられたのです。

私が踊りを始めたのは二十一歳ですが、すぐ流暢に自己表現ができたわけではありません。出会いは衝撃的でした。体操やサッカーなどスポーツをやってきた自分でも、驚くほど思うように体を動かせず、まるで赤子に戻ってしまったかのようだったからです。立っていること、たった一歩ステップを踏むことすらままならない。足はもつれ、無様な姿をたくさん

さらしました。悔しさから、はじめはただひたすら練習に明け暮れましたが、一つ一つの動きを習得するうち、いつしか踊りの無限の魅力に夢中になっていったのです。それはまるで赤子の成長過程を再び体験しているかのようなもありました。体で気持ちを紡ぐことの喜びを全身で感じたのです。

踊りと出会って二十年ほどが経ちました。言葉のない世界に逃れたはずの私が、踊りの豊かさ深さを知れば知るほど、不思議なことに、いつしか言葉に少しずつ惹かれるようになっていきました。体の中から湧いてくる想いを言葉でも伝えたい、時には大きな声で言葉を叫びたいと思うようになっていました。言葉の響きや文字の流れの美しさ。言葉と言葉の間に想いを託し、その心を読み取る日本語。その美学は、私の目指す踊りに非常に共通していると感じるようになりました。想いを言葉に託し伝えることの難し

さと素晴らしさ。踊りが言葉の魅力と大切さを教えてくれたように感じます。

振付を考える際、私は少年時代に習っていた書道からヒントを得ることがあります。書道の表現は、踊りそのものの。漢字やひらがなには動きがあり、まるで文字が踊っているようです。筆の強弱や、スピードとリズム。止めや跳ね、払い、滲み、かすれ。これらは踊りにおいても、非常に重要な要素です。文字の流れを体で追うと、美しい軌跡が生まれます。湧いてきた言葉を、思い切り全身を使い踊るのです。

私が講師を務めるダンスワークショップでは、参加者に「文字ダンス」を体験してもらいます。紙の上ではなく空中に書道をする踊りです。大人も子どもも、たとえ踊りをやったことがなくても、空中に文字を書くことは比較的抵抗なくできるからです。「あいいうえお」から始

め、自分の名前や好きな言葉を空中に自由な発想で書いていきます。手だけでなく、頭や足、お尻も使います。筆、マジック、シャープペン……。異なる筆記具になったつもりで体を動かしてみることもあります。

次に一つの言葉から連想し、振付を展させ、短い踊りをつくっていきます。「あめ(雨)」だったら、文字が水で滲むイメージで動いたり、水滴が跳ねるイメージで踊ったり。同じ言葉を踊っても、それぞれ違う魅力的な踊りが生まれます。

森山開次
もりやまかいじ

1973年神奈川県生まれ。21歳でダンスを始め、2001年ソロ活動開始。初ソロ公演「夕鶴」以降、和の素材を用いた独自の表現世界で知られる。05年『KATANA』で「驚異のダンサー」(米New York Times紙)と評され、07年にはベネチアアビエンナーレに招聘される。12年「曼荼羅の宇宙」で芸術選奨文部科学大臣新人賞、江口隆哉賞、松山バレエ団顕彰・芸術奨励賞を受賞。平成25年度文化庁文化交流使。映画・テレビ・写真作品など幅広い媒体での身体表現に積極的に取り組んでいる。



撮影:石塚定人

小さい頃、盆踊りの輪に入ることすらできなかった私は、子どもたちや保護者の方に声をかけます。「うまく踊れなくてもいいんだよ」。体はとても雄弁です。うまく踊れようが踊れまいが、踊りはその人のすべてを物語ります。体の存在そのものが、その人の、人となりや心を表現します。そこにいるだけです。誰かが踊っている。そして踊るとな一層、その人の心が伝わってきます。踊りは言葉にならない想いを表現することができる。

小さな一言からたくさんの想いを受け取ることがあるように、大切なのは、踊りにしても言葉にしても、想いを込めることではないでしょうか。言葉については反省しきりの毎日で、いまでも時に黙りこみ、無口な男になりますが、それでもやっぱり、この体も、言葉も、想いを込め美しく踊らせて生きたいと願っています。



特集

「描写」を 読み解く

長年にわたって教科書に掲載されている
「少年の日の思い出」。
今回ご紹介する授業は、描写に着目し、
描写を読み解くことから、
作品への理解を深めていくというものです。

単元名 「描写」を読み解き、自分の考えをもつ

使用教材 「少年の日の思い出」（二年）

港区立赤坂中学校教諭

甲斐利恵子先生

一年生（十七名）

中学生のことを「やる気」が歩いているような人たち」と称する甲斐利恵子先生。今年度の赤坂中学校の一年生もその表現どおりの生き生きとした表情をしています。日頃、文学作品に親しむ機会が少ないという、生徒の状況を考慮し、甲斐先生は、「少年の日の思い出」の読みに入る前にある導入を取り入れました。その導入が、作品理解をする際にどのくらいの効果をもたらすのか、本実践の見どころです。

授業の流れ

授業は全九時間（下の「学習指導計画」参照）。
甲斐先生は次の目標を立てた。

目 標
描写がどのようなものか理解する。
作品の中の描写に気づき、書き出す。
選んだ描写について、自分の意見を述べる。

第一～三時の導入は、第四時以降の学習を充実させるための時間である。

第一時（導入①）

第一時では、教材文に出てくる言葉を取り上げ、その言葉を使って百字程度のお話を作るという学習を行う。甲斐先生はこの学習を「言葉の小劇場」と名付け、新しい単元に入るときによく行っている。書いた後は、友達の記事も読み、自分が取り上げなかった言葉の意味や使い方を知る。教材の中に出てくる言葉をしっかり理解することが、読みの支えになる。

このような頭の準備運動を済ませたところで、本単元のキーポイントとなる、二つ目の導入に入る。

学習指導計画（全九時間）

第一時	導入①「言葉の小劇場」 ・教材文に出てくる言葉を理解する。
第二・三時	導入②描写「おはよう」 ・朝の様子を描写する。 ・友達の作品を読み、表現を学び合う。
第四時	学習の流れを知る
第五時	「少年の日の思い出」の朗読CDを聴く ・CDを聴きながら、どの描写（情景描写・行動描写・心情描写・人物描写）を取り上げるか検討する。
第六時	描写を読み解く ・手引きで書き方を確認する。 ・教科書の文章の中から描写を二つ選び、それを読み解く。
第七・八時	発表 ・友達の発表について意見を出し合う。
第九時	まとめ ・学習を振り返る

描写「おはよう」

●描写を理解する

描写とは？

「皆さんの感想文を読んでいると、『この作品は心情描写がすばらしい』といった表現を使っているのを見かけますが、そもそも『描写』ってどういうものなのか考えたことはありませんか」。授業の冒頭、甲斐先生は投げかけた。改めて問われると、生徒たちはなかなか答えられない。先生は次のことを板書した。

描写

實際の状況を、書き手の観察や想像によってくわしく表す。

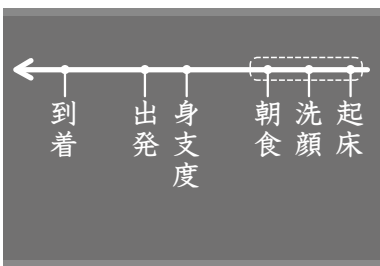
言葉の意味を知っただけでは、描写を理解していることにはならない。そこで甲斐

場面を絞って描写する

は深くうなずく。最初はおぼろげにしか理解していなかった描写が、生徒の頭の中ではつきりとしてきたようだ。

甲斐先生は、生徒の反応を見て、そろそろ次の段階にいつても大丈夫だろうと判断した。「では、皆さんにも描写に挑戦してもらいます。題は『おはよう』です。ところでAさん、今朝は何時に起きた?」「それから何をした?」などと問いかねながら、左図のように板書した。

そして、「まずは先生の『おはよう』作文を例として読みます。この図でいうと……」と言いながら、起床から朝食までの部分に印を付けた。



先生は例文を紹介する。「今から読み上げる文章は、皆さんの先輩（三年生）が書いた随筆です。どんな描写をしているか気をつけて聴きましょう」。

【中学三年生の例】

七つのときだ。雨はやみそうになかった。私はだれもない生徒玄闔で、ある少女の前に立っていた。どんよりとした空気が私たちの間にただよっていた。予鈴が鳴った。ざあざあと雨音が聞こえる中、私たちは無言だったが、口火を切ったのは彼女だ。「うざいのよね。」一瞬、彼女の言葉を理解できなかった。

「描写がある場合とない場合とではどう違うのか、今の文章から描写の部分を抜

【先生の例】

昨日、授業の準備で夜中の一時半まで起きていた。そのせいか、いつも通り六時に起きるのがつらかった。なんだか寒くなってきたし、昨日の休みが今日も続けばいいなと思いが、ぐっぐりとべっぴんから足を出した。足が冷たかった。もう冬が近づいているんだと実感した。今日から夫は出張だ。朝の準備は自分だけだ。昨日のうちに作っていた野菜スムージーを一気に飲めば、食事はおしまい。なんだか一人って気楽でいいなと思った。

「ここまでで二百字です。描写を入れる
 つは、できるだけ短い時間帯に絞って、
 その様子を詳しく書くこと。朝起きてから
 学校に到着するまでのすべてを書く」とす



いて、出来事だけを並べた文を読みます」。先生は続けて読み始めた。

七つときだ。私は生徒玄関で、ある少女の前に立っていた。予鈴が鳴った。彼女は言った。「うざいのよね。」一瞬、彼女の言葉を理解できなかった。

「描写がなくてもストーリーはわかりますね。でも、描写があることによって、その場にいたわけではないのに、その状況が手に取るようにわかります。視覚、聴覚、触覚などの諸感覚を働かせると詳しく伝わります」と言い、先生はさらに具体例を挙げた。

・僕は走った。

・僕は、先を争って走った。靴と細かい砂がこすれ合う音がザツザツと鳴り響いた。

「それから、こんな描写もあります」。

- ・ につこり笑って「嫌い」と言った。
- ・ 軽蔑のまなざしで「嫌い」と言った。

「この二つは、まったく違う状況が思い浮かびますね」。先生の言葉に、生徒たち

ると、出来事を羅列するだけの文章になっ
てしまいます」と言いながら、再度、黒板
の図を指した。視覚化することで、そのこ
つが生徒に明確に伝わったようだ。

「では今から一分で、どの場面を取り上げるのか決めてください」と先生は指示した。適度な時間制限を設けることで、生徒は集中する。各自、黒板の図をじっと見つめながら、朝の様子を早回しで思い出す。一人一人、どの場面を書くか発表した。後、いよいよ描写に挑戦。書く時間は十五分。早速鉛筆を走らせる生徒もいれば、じっと考え込む生徒もいる。

なかなか書けない生徒に向けて、先生は
机間指導を行う。「どんな音がした？」に
おいは？」「僕は……という書きだしにし
ないで、目が覚めると〇〇が目に入った、
はどう？」「空の色はどんな色だった？」
などと、生徒が書きやすくなるよう投げか
けていく。これらのヒントを聞いて、生徒
たちの手が動き出す。

十分後には数名の生徒から、「できました！」という声が上がった。先生は見直しするよう促し、次の時間は発表だということ伝えて授業を終えた。

まるで、家の中を のぞいているよう

発表の前に、推敲する時間と自主練習の時間を設けた。すでに推敲を済ませた生徒も、もう一度確認する。発表が目前に迫っているのに、推敲する姿は自然と真剣になる。自主練習は三十秒。全員、自分の書いた文章を声に出して読む。「二百字の作文だったら、三十秒くらいで読むのがちょうどいい速さです。二十秒で読み終わってしまふ人は、少し速すぎるということですよ」と先生はアドバイスした。

【Iさんの発表】

肌寒い朝。うるさい時計を止め床に足をつけた。足の先から床の冷たさが伝わった。だんだんと目覚めてくるとキッチンから卵を焼く音とココアのおいがした。フラフラと居間に行くとき母が朝食を作りながら静かに「おはよう」と言った。僕も静かに「おはよう」と返した。朝食を食べ、ココアを飲もうとした。冷たい手がだんだんと温かくなった。家を出る頃にはもうみんな起きていた。僕はみんなに「おはよう」と言って家を出た。



Iさんの発表が終わると、教室内から自然に拍手が湧いた。「トップバッターの人がこんなにすごいと、プレッシャーがかかるね。でも、みんなも同じくらいよく書けていますからね」と先生は言い、Iさんの文章のどの表現がすばらしいと思ったか、数名の生徒に発言させる。

生徒 「フラフラと居間に行く」という表現から、眠そうなことがよくわかります。

生徒 「静かに『おはよう』と言った。僕も静かに『おはよう』と返した」という部分から、Iさんの家の穏やかな雰囲気伝わってきていいなと思いました。

先生 まるで、Iさんの家の中をのぞいているみたいな感じがしましたね。

甲斐先生は、発表後の講評の時間を大切にしている。発表者のよいところを必ず見

第四時

学習の流れを知る

●学習の見通しをもつ

これから何時間かけてどんな学習をするのか、生徒と共有するために、先生は「学習の流れ」(P5の「学習指導計画」を生徒用にアレンジしたもの)を配布した。ひ

ととおりの説明の後、ワークシートと手引き(左図)も配布。

今回のワークシートは、「少年の日の思い出」の文章の中から、描写がすばらしいと思った部分を書き出して、その描写を読み解き、自分の考えを書くというもの。

手引きは、そのワークシートに、先生が例文とポイントを書き込んだもの。文章を書くうえでヒントが詳しく示されている。

これらを見て、生徒たちは、これからの学習のイメージがつかめたようだ。

第五時

朗読CDを聴く

●描写に気づく

「今日はちよつとすてきなものを用意しました」と笑顔の甲斐先生。「ワークシートに取り組み前に、朗読CD(※1)を聴きます。俳優さんがとてもすてきな声で読んでるので、ぜひ聴いてもらいたいと思って用意しました。これを聴きながら、すばらしい描写だと思ったところに付箋を貼ったり、鉛筆で印を付けたらしてください。そう前置きし、描写には次のようなものがあると板書した。

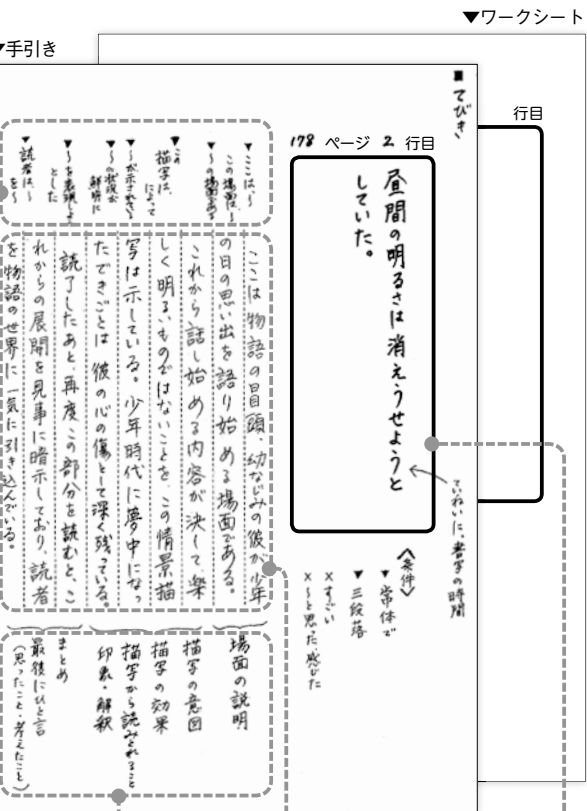
情景描写、行動描写 心情描写、人物描写

さまざまな観点から描写を意識するよう伝え、CDを再生した。生徒は気になった描写に、次々と付箋を貼っていく。「おはよう」作文を書いたことにより、描写に対して敏感に反応しているようだ。



つけて、みんなの前で価値づける。「言葉を学ぶとき、飾っては何も得られません。思ったことを素直に表現できる教室を」と心掛けているそうだ。

先生は、本時の授業をこのように締めくくった。「皆さんの描写、すばらしかったです。ではプロの作家はいったいどんな描写をするんでしょうね」。次時からいよいよ「少年の日の思い出」の読みに入る。



※1…国語指導CD1年(光村教育図書)

描写を読み解く

●自分の意見を述べる

描写の読み解きに取り組む時間になった。朗読CDを聴きながら、どの生徒も教科書にたくさん付箋を貼っていたが、まずはその中から、取り上げたい場面を二つ選び出す。先生は、それを三分間で選ぶよう指示した。生徒は「迷うなあ」「二つに絞れない」などと言いながら、取り上げる場面を決めた。

ここからは、ワークシートのフォーマットに沿って、各自取り組みのだが、甲斐先生の指導はとても丁寧だ。生徒が書き始める前に、こんなアドバイスをした。「幼い文章を卒業するために、ここに注意して書きましょう」。

○常体 ×敬体

これは禁句！
～と思った。
～と感じた。

第七・八時

発表

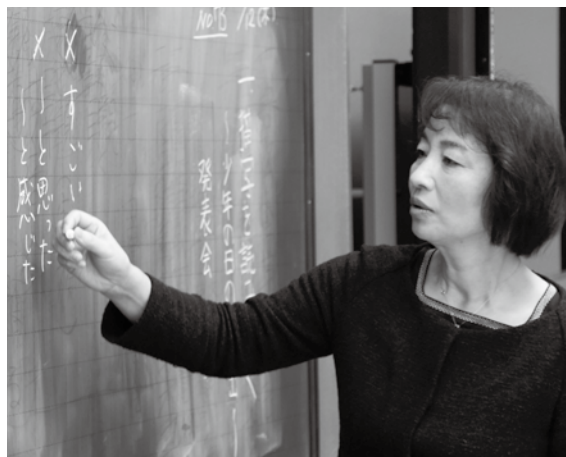
●友達の発表について意見を
出し合う

甲斐先生は、青い表紙の冊子を抱えながら教室に入ってきた。「昨日皆さんが提出したワークシートを文集にしましたよ。今日はこれを見ながら発表をしてもらいます」。生徒たちは少し緊張した面もちをしている。そんな中、甲斐先生はいつもどおり、発表前の推敲の時間を取った。

先生 禁句を使っている人がたくさんいましたよ。禁句って何でしたか？

生徒 「～と思った」とか、「すごい」とか。先生 そうそう。ちゃんと覚えていますね。そういった言葉を使うと、幼い文章になると言いましたよね。今から二分間、推敲の時間を取りますから、その間に大人の文章にしましょう（笑）。

このように繰り返し指導することで、クラス全員が中学生にふさわしい表現を身に



先生 「思った」とか「感じた」はやめて、「～だ」という言い切りの形にすると、文章がきりつと締まります。思いきってカットする力をつけましょう。

生徒 でもどうしても断言できないときはどうすればいいんですか。

先生 自信がないときは、「～であろう」を使うといいですよ。

それから、皆さんがよく使っている「すごい」「おもしろい」もやめましょう。これを他の言葉に置き換えると、今までとは違う文章になりますよ。

つけていく。そして、一人目の生徒Yさんが発表を始めた（発表の内容は下のワークシート参照）。他の生徒は、発表を聴きながら、いい表現だと思ったところにマーカーを引いていく。

先生 みんな、どこにマーカーを引きましたか？

生徒 「怪談話でもするかのように」という表現がすごくよかったので、そこに引きました。

先生 同じところにマーカーを引いた人、手を挙げてください。

（半数以上の生徒が手を挙げる。）
先生 ヘッセの「やみ一面」という表現を、Yさんは「～のよう」という比喩法を使って読み解いたんですね。「怪談話」という言葉はわかりやすくていいですね。

その後も発表は続き、二時間かけて、十七人の発表と講評を終えた。

全体への指導が終わり、各自が描写を選び、読み解くという学習に取り組み始めた。手引きを机上に置き、プロの描写の読み解きに挑戦する。ヘッセはなぜこのような表現を使ったのか、その思いや意図を考える。「この文章は、○ページの場面への伏線だ」などと深い読み解きをする生徒もいる。

先生の丁寧な指導はここからも続く。生徒の様子を見ながら、必要に応じて声をかけていく。文章の主述が合っていない生徒には、「これは誰がそうしたの？」と質問。生徒は少し考えて、「あつ」と気がついて書き直す。

ある生徒は手を挙げて先生に質問する。「『すごい欲しい』ということとを別の言葉で表現したいんだけど……」。先生は生徒と一緒に類語辞典を見て、言葉選びの相談に乗る。「この場合は、『欲望』かな、『欲求』かな？」

丁寧な文章指導により、授業時間内に全員がワークシートを書き終えることができた。「おはよう」作文を経て、皆さんがどんな読み解きをしたのか楽しみです。次の時間に発表してもらいますね」と告げて、本時の授業は終わった。

180ページ 10行目

かえるが、遠くから甲高く、
やみ一面に鳴いていた。

ここは、物語の冒頭から少し進んだところである。子供の時の思い出を語りはじめる場面だ。これからする話に楽しさを感じさせない、怪談話でもするかのように、静かに、自らの苦しい思い出を真剣に語っていることが、この情景描写からわかる。大切な場面の冒頭を、この描写でうまく表しているのだ。

▲生徒Yのワークシート



まとめ

●学習を振り返る

単元の最後に、先生は再度、「描写とは」という話をした。「描写をすることによって、その状況は、ほんやりとしたものから輪郭をもったはつきりしたものになります。今後、他の作品を読むときや、自分で文章を書くときは、『描写』にぜひ着目してみてください。」生徒たちは、先生の顔を見ながら深くうなずいた。

生徒作例

——「少年の日の思い出」の描写を読み解く——

180 ページ 16 行目
～181 ページ 2 行目

ちようを採りに出かけると、学校の時間だろうが、お昼ご飯だろうが、もう、塔の時計が鳴るのなんか、耳に入らなかった。

これは、彼の幼い頃について語っている場面である。彼はどんなことよりも、ちようを採りに行くのが好きだったことが伝わってくる。「くだろうが」という言葉の反復がともいきている。この描写により、後に起こる事件で、彼がどれだけクジャクヤママユを欲していたかがわかる。

思いつくを語るとき、この描写があるのではない、大きな違いがでてくる。

178ページ 2～3行目

色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。

ここは物語のはじめで、「私」は夜に窓の外を眺めている。この後から「彼」の話が始まる。このたった二行の情景描写で、この話が暗いものだと示しているのはもちろん、「遠くかなた」というところから、終わりのない話だということも読みとれる。ここから作者は、「彼」の話のシチュエーションをより分かりやすく説明しているのではないか。

185 ページ 17 行目

その瞬間に、僕の良心は目覚めた。

この場面は、僕がエミールのちようを盗んでしまい、そのとき、誰かが下からやってくるのが聞こえた場面である。それまでは、ちようを手に入れた喜びしかなかったが、自分がした事の重大さを僕は感じたのだ。だんだんと僕が苦しんでいくことがよく分かる。

この後のさらなる展開の前置きとしても有効だろう。

授業を終えて

甲斐利恵子

「描写」を体感してほしい

「描写」ということを頭で理解するのではなく、体感してほしいというのがこの授業の始まりでした。私たちの日常生活には「描写」を感じるチャンスがいっぱい転がっています。まずは、「描写」のもつ力を体感することから始めたいと思います。

日々の何げない日常も「描写」することによって色鮮やかなものになります。同じ風景の中にも目のつけどころは人それぞれで、その人のもっている価値観、美意識、習慣などによって描かれる風景は異なってきます。また、そのときの心のありようによって、切り取る風景はおのずと異なったものになります。表現する側に立って「描写」を体感し、その生産過程に身を置くことによって、「描写」を理解することができるようではないかと考えました。

重厚な「描写」を味わうための単元構成

今回の単元は大きく二つの構成になっています。一つは「描写」をする学習。もう一つは「描写」を味わう学習。「描写」を味わうために、いわばその土台作りとして「描写」をする学習を先にしておこうという試みです。「少年の日の思い出」の中にある重厚な「描写」を味わうための、「基礎力」をつけておきたいという意図がありました。

「少年の日の思い出」の朗読CDを聴きながら、すばらしいと思った「描写」に付箋を貼るという学習の時間がありました。文章を食い入るようにながら付箋を次々と貼っていく生徒たちは、真剣に文章に向き合っていたと思います。

生徒たちの姿を見て

「おはよう」作文は初めての試みでしたが、生徒たちが自分の朝を楽しそうに



かい りえこ

福岡県生まれ。東京都港区立赤坂中学校教諭。光村図書中学校「国語」教科書編集委員。専門は国語科単元学習。著書に、『子どもの情景』（共著・光村教育図書）、『聞き手話し手を育てる』（共著・東洋館出版社）など。

参考図書のご紹介

「少年の日の思い出」をより深く知る



ヘルマン・ヘッセ 蝶

V・ミヒエルス 編／岡田朝雄 訳／岩波書店

ヘッセの蝶・蛾を題材にした散文・詩を、美しい挿絵とともに収めた作品集。ヘッセは生涯を通して蝶に深い関心を寄せていたことがわかる。

※本書は絶版のため、図書館や古書店などから入手してください。



少年の日の思い出 —ヘッセ青春小説集—

ヘルマン・ヘッセ／岡田朝雄 訳／草思社

ドイツ文学者岡田朝雄氏による新訳（2010年発行）。訳者は昆虫にも造詣が深く、蝶・蛾に関する訳注が充実している。教科書掲載の同作品（高橋健二訳）の描写表現との比べ読みもおすすめ。

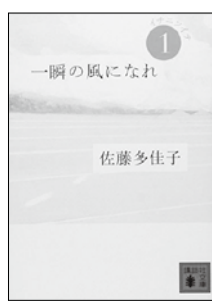
生徒に「描写」を味わってほしい



楽隊のうさぎ

中沢けい／新潮文庫

中学の吹奏楽部を舞台にした作品。引っ込み思案の少年の心の機微と成長が描かれている。友人や家族とのやり取りの描写が自然で、中学生読者が共感しやすい。日常の描写例として参考になる1冊。

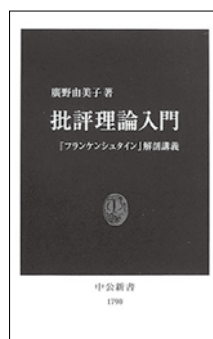


一瞬の風になれ

佐藤多佳子／講談社文庫

高校の陸上部を舞台にした作品。短距離、リレーなどの競技中の描写からは、疾走感や爽快感が伝わってくる。また、生き生きとした人物描写が、中学生読者の心をとらえる。魅力的なタイトルにも着目したい。

「描写」の研究に



批評理論入門

廣野由美子／中公新書

イギリスの怪奇小説『フランケンシュタイン』をさまざまな観点から読み解いた1冊。小説の冒頭部分の役割や、語り手の効果などについて解説している。小説の仕組みと読み方を専門的に学びたい人におすすめ。



人物表現辞典

中村明 編／筑摩書房

日本近代文学から採集した、1万近い人物描写の文例を分類・整理した1冊。描写例を探すときに使いたい。『感情表現辞典』『感覚表現辞典』（中村明／東京堂出版）などもおすすめ。



かみたに じゅんざぶろう

1962年鹿児島県生まれ。鹿児島大学教授。光村図書小学校・中学校『国語』教科書編集委員。文学的文章の授業、読者中心の文学理論などについて研究。著書に、『読者論で国語の授業を見直す』（明治図書出版）など。

最後に、「少年の日の思い出」の人物描写について付け足したい。エーミールに対する僕の見方については「呼称」に注目するとおもしろい。「隣の子供」「先生の息子」「この少年」「彼」ときて、二年後の話でやっと初めて名前が出てくるときには、いきなり「あのエーミール」なのだ。この話を「私」にしているときの思いが表れているのだろう。

* * *

かみたに じゅんざぶろう
上谷順三郎

授業リポートを読んで

読み書きの両方で

「描写」を学ぶ

描写は必ずしも必要ではない。それがなくても大体は通じる。その「なくてもいい」ものを学ばせるために、甲斐先生はさまざまな試みを行った。

第一時では、教材文から言葉を抜き出し、それらを使って作文を書かせるという学習を行った。第二・三時では、描写がある文章とない文章を比べさせる学習を組んだ。そして描写が授業以外の場でも生かせることを「おはよう」作文で体験させた。この授業では、書いたり読んだりする活動が繰り返し取り入れられ、描写を読み書きの両方から学べるようにしている。そして描写は、作家だけでなく、自分たちの表現にも関係することを実感させているのである。

「聴く」ことで

「描写」を意識させる

描写がない方がわかりやすい。それは注意して読まなくていいからだ。ただ、描写に注目するとあらたな楽しみがあることに気づく。その楽しみを実感させるには「聴く」が効果的なのである。甲斐先生の授業では「聴く」が効果的に盛り込まれている。

第二時で取り上げた先輩の作文は、先生が音読するのを生徒が聴く。「おはよう」作文のモデル文も読んで聞かせる。そして生徒の作文は、必ず音読発表をさせて、他の生徒に聞かせる。教材文はプロの朗読を聞かせる。描写は微妙なニュアンスがあるぶん、集中して取り組まないとおもしろさがわからない。描写を楽しむ授業づくりに、「聴く」が大きな効果を発揮していたといえる。

アクティブ・ラーニング Q&A

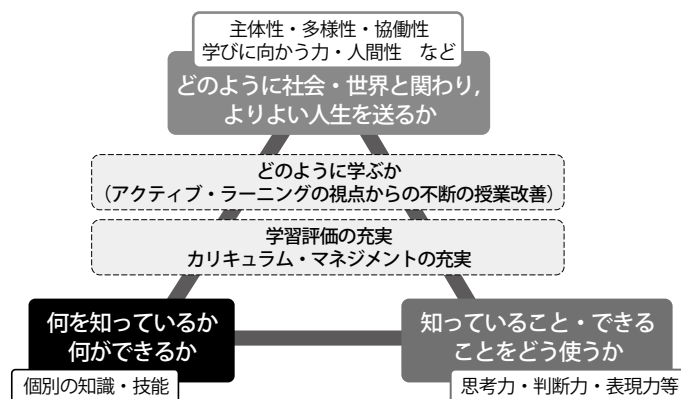
第二回

学習指導要領改訂に向けて関心が高まるアクティブ・ラーニング。現場の先生方から寄せられるさまざまな疑問や悩みに、富山哲也先生がご回答くださいます。

Q アクティブ・ラーニングによって、生徒にどのような力がつけばよいのでしょうか。

A これからの子どもたちに必要な、三つの資質・能力の育成につなげていくことが大切です。

二〇一五年八月、中央教育審議会教育課程企画特別部会から「論点整理」というものが報告されました(※)。これは、次期の学習指導要領の方向性についての部会の議論をまとめ、今後の論点を明らかにしたものです。この中で、アクティブ・ラーニングの目的・役割が述べられています。下の図を見てください。



「論点整理」補足資料 P27より
「育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念」

まず、これからの子どもたちに必要な資質・能力を、
○何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
○知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)
○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(主体性・多様性・協働性、学びに向かう力、人間性等)
の三つに整理しています。そして、これらの資質・能力を育成するために、アクティブ・ラーニングの視点で授業を見直すことが必要だと説明しているわけです。

つまり、知識・技能を使って課題を解決しながら思考・判断・表現し、同時に、社会や世界と関わり、人生を豊かなものにしようにとする気持ちを育てること。これを目指す授業が、すなわちアクティブ・ラーニングであると言えることができます。

Q 「これが『アクティブ・ラーニング』である」という、特別な授業の進め方がありますか。

A 特定の「型」で捉えるのではなく、先生方による多様な実践が求められています。

アクティブ・ラーニングを、特定の学習形態や授業の進め方として捉えるのは適切ではありません。

例えば、「協働的な学習」という点を実現しようとする、グループ学習という形態が思い浮かびます。現に、今、小学校・中学校を中心に各教科でグループ学習が広がっているようです。しかし、それらの授



イラスト：田中幸晶

業の中には、個人の思考や作業が十分に行われないまま、すぐにグループになって学習が進められてしまったり、交流により考えを深めたりアイデアをまとめたりする過程が淡白で、結論も表層的であったりする様子も散見されます。これでは協働的な学習にならないばかりか、グループにしたことがマイナスになってしまいます。授業の工夫を「型」で(型「だけ」で)捉えてしまったことの問題点と言ったことができます。

では、その「視点」として、どのようなものが考えられるでしょうか。「論点整理」のP18の(iii)から、「視点」となるキーワードを抜き出してみます。
○問題の発見と解決
○他者との協働
○外界との相互作用
○考えの広がり・深まり
○対話的な学び
○見通しをもった取り組み
○学習活動の振り返りと次へつなげる意識

まずはこの視点で、現在の授業を見てみてはいかがでしょうか。すでに、アクティブ・ラーニングが実現できていることがたくさんあると思います。アクティブ・ラーニングは、ゼロからのスタートではありません。

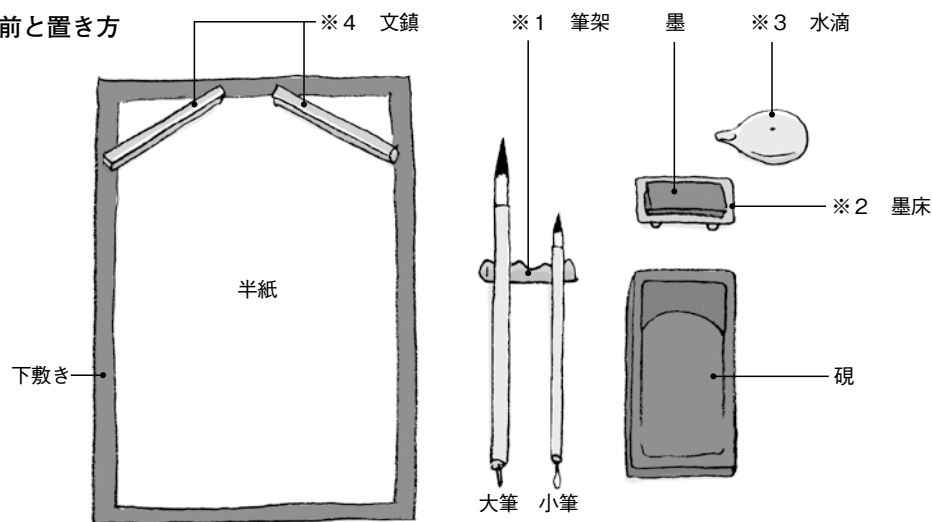
「論点整理」の中でも、アクティブ・ラーニングを特定の「型」として捉えることについては強い懸念を示しています。そこで強調されているのは、先生方自身が「アクティブ」になって授業をつくっていくことへの期待であるように思われます。効果を上げている先進的な事例に改めて学ぶことはもちろん大切ですが、それを「型」として取り入れるのではなく、目の前の生徒に即した実践に生かしていくという考え方が大切です。「型」から授業をつくるのではなく、前述した三つの資質・能力育成のための「視点」をもって、授業づくりをする



富山哲也

十文字学園女子大学人間生活学部児童教育学科教授。東京都公立中学校教員。あきる野市教育委員会、多摩教育事務所、東京都教育庁指導部指導主事を経て、平成16年10月から文部科学省教科調査官(国語)、国立教育政策研究所教育課程調査官・学力調査官。平成20年版学習指導要領の作成、全国学力・学習状況調査の問題作成・分析等に携わる。平成27年4月から現職。第1期<絵本専門士>。

■用具の名前と置き方



▲丁寧に用具の説明をする店長の庄司さん。

これまで、文房四宝（筆・墨・硯・紙）について、その種類や製造工程をご紹介してきました。今回は、さまざまな書写の用具を扱っている鳩居堂（東京都中央区）にお邪魔し、文房四宝以外の用具について、店長の庄司治好さんに伺いました。

文鎮は、種類によっても重さがさまざまなので、買うときには、実際に手に取っ

2 さまざまな文鎮

——学校で使う文鎮は、金属製の細長いものが多いですが、お店にはいろいろな形のものがありますね。

動物の形のものや、ガラスで作られたものなど、見ているだけでも楽しいですよ。年末年始には、干支がモチーフになった文鎮も人気があり、お土産に買ってもらえる方も多くいらっしゃいます。



▲【文鎮】紙や書物を押さえる重し。動物をかたどったものも多い。

筆をとって書く、という流れがスムーズにできるので、私はこの置き方をおすすめしています。墨床や水滴は、硯の上の方に置いておくとういでしょう。

それから、細長い文鎮を半紙と平行に置く人が多いと思いますが、このように（上図参照、斜めに置くのがよいと思います。平行に置いてしまうと、半紙の少し下の位置から書き始めなければならなくなってしまうので。

イラスト：北村ケンジ

私たちの知らない、書写の用具がたくさんありました。

350年以上の歴史をもつ老舗・鳩居堂さんにお邪魔したよ。



わあ、見たことのない用具がたくさんあるなあ。

うちのお店では、中学校の書写の授業では使わないような用具もいろいろ扱っていますので、中学生の皆さんには、初めて見るものが多いかもしれませんね。

——これらの用具の名前を教えてください。

筆を置く台を「筆架」（※1）と言います。書いている途中に、墨がついた筆を置いておくことができますので、とても便利です。使った墨を置いておく台は「墨床」

1 用具の名前と置き方

（※2）と言います。そして、硯に水を注ぎ入れるのが「水滴」（※3）。それから、これは皆さんも書写の授業で使っていると思いますが、紙を押さえる「文鎮」（※4）です。

用具の置き方は、このように（P19上図参照、半紙のすぐ横に筆架と筆、その隣りに硯を置くとういと思います。筆架と硯を逆に置く人もいますが、筆架が半紙のすぐ横にあるほうが、墨を磨（す）ってから



▲文鎮、水滴など美しい書道用具がずらりと並ぶ。

さまざまな用具の世界

■その他の用具



▲【硯屏】昔は硯の前に立てて、風や埃をよけるものとして使用していたが、現在は鑑賞用として使われている。



▲【筆掛】筆を吊るして保管するためのもの。筆を洗って穂先を下にして干すと、水分が筆の根元にたまらず、腐食も防げる。



▲【筆筒】筆を入れておく筒。倒れないよう、ある程度の重さがあるほうが使いやすい。

私どものような専門店には、安価なものもありますが、高級な用具もあります。中学生のみなさんのお小遣いだ、それらをすべてそろえるのは難しいかもしれません。でも実は、みなさんの身近には、書写の用具として代用できるものがたくさんあるんですよ。例えば、私は旅先な

書写の用具には、そのような選ぶ楽しさがありますね。
用具を選んで、書く環境を自分好みにしていくと、書がますます楽しくなるんですよ。私は、書く時間も大事ですが、書く前の準備の時間も、とても大事だと思っています。自分が「いいな」と思った用具を半紙の周りに置いて、それらを眺めながら墨を磨る時間というのは、贅沢でいいものです。心が落ち着き、よい字が書ける気がします。

6 環境をつくる楽しさ

で、書きたい文字によって、水滴を選んで使っています。迫力のある字を書きたいときは、色が鮮やかな水滴を、渋い字を書きたいときは、落ち着いた色合いの水滴を……というように使い分けて、気分を盛り上げています（笑）。

東京鳩居堂 銀座本店



1663(寛文3)年、京都寺町の本能寺門前に薬種商として創業。その後、薬種原料の輸入先である中国より、書画用文具を輸入して販売を開始。書画用品のほか、香と和紙製品も取り扱う。現在、銀座本店のほか、5支店を構える。

東京都中央区銀座5-7-4

T E L : 03-3571-4429 F A X : 03-3574-0075

営業時間：10:00～19:00(平日・土曜)
11:00～19:00(日曜・祝日)

W E B : <http://www.kyukudo.co.jp>

3 あると便利な筆架

——筆を置く筆架も、いろいろな形のものがあるんですね。

山のような形をしたものや、魚をかたどったものなどさまざまですが、筆を置きやすい「波型」をしたものが多いですね。素材は陶器や木、高級なものだと「玉」を使ったものもあります。書いている途中で、墨を含んだ筆を置きたいとき、筆架があるとたいへん便利です。



▲【筆架】筆を置く台。「筆置き」とも呼ばれる。波型で横幅5～15cm程度のものが多い。

4 意外と役立つ墨床

墨床は、墨を磨って、さらに水を足すときなどに、いったん墨を置く台として使います。あってもなくてもよさそうなものと思いますが（笑）、実は意外と便利な用具です。墨床がない場合、墨を硯に立てかけたりしますけれど、そうすると墨が倒れて机が汚れることが多々あります。安定感のある墨床があると安心ですね。



▲【墨床】墨を置く台。「墨置き」とも呼ばれる。墨の大きさに合わせて選ぶとよい。

5 収集したくなる水滴

水滴は、硯に水を注ぐときに使うものです。大きな字を書きたいときは、墨をたくさん磨らなければならないので、大きめの水滴を使い、仮名を書くときは、少しの水でよいので、小さなかわいらしい水滴を使うとよいでしょう。

水滴は、形や色にさまざまなバリエーションがあるので、収集している人が多いようです。実は、私も集めておりまし



▲【水滴】硯に水を注ぐための器。「水差し」とも呼ばれる。匙で水ですくって入れるタイプもある。

教科書をより効果的に活用できるよう
さまざまな指導書をご用意いたしました。

古典指導の方法

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

伝統的な言語文化の重視に伴い、古典の世界をさらに広げ、関心・意欲を高めるための指導書です。教科書の全古典教材について、作品の理解を深める教材研究と、個性豊かな指導計画例・展開例を紹介。また、ワークシートやプリント例などの資料も充実しています。

国語科における読書指導・情報活用・新聞活用のヒント

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

- ・学習指導要領で重視されている読書指導・情報活用・新聞活用について、最良のガイドブックとなる指導書です。
- ・「読書指導編」「情報活用編」「新聞活用編」の3部構成。今すぐ実践できる授業のアイデアを、図や写真と共に紹介しています。
- ・学校図書館を充実させる方法、コンピュータや周辺機器の活用のしかた、情報モラルなど、指導の際に踏まえておきたい基礎知識を丁寧に解説しました。

ピンポイントで力をつける言語活動のアイデア集

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

- ・学習指導要領の「言語活動例」をもとに授業を構想し、短時間で効率的に力をつける指導書です。3時間以内で効果的に力をつける、39の授業モデルを紹介。
- ・1指導案2見開きのコンパクトな構成で、授業前のウォーミングアップやカリキュラムに応じた指導に活用するのに最適です。展開例に即した教材・ワークシートが付いているので、事前準備の必要がありません。

授業に役立つワークシート集

1～3年 各1冊
CD-ROM付
本体各3,600円＋税

教科書の内容に完全対応、教室の実態に合わせて活用できるワークシート

- ・教材ごとに「予習シート」「学習シート」「自己評価シート」によって構成されています。課題に取り組みながら、予習から自己評価まで確実に学習のポイントを押さえられます。
- ・使いやすいリングファイル形式。1枚ずつ外してコピーすることができます。
- ・評価の参考となるように、巻末に解答例を収録しました。

CD-ROM 授業形態に合わせてアレンジできるよう、一太郎とWordに対応するデータを収録しています。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」指導の方法

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

理論と実践の両方を扱った、教科書掲載の教材から発展したオリジナルの活動ヒント集です。言語活動やつきたい力に応じて、知りたい事柄をすぐに検索できるよう、全授業案の内容紹介や用語索引も設けています。

言葉に関する理論と実践

1～3年 全1冊
本体4,200円＋税

言葉の学習と生徒の日常生活を結び付けることを目指した指導書です。教科書の文法・言語教材について、多様な指導のヒントを収録。言葉に関するコラムも豊富に掲載しました。また、文法に関する事項を「文法の解説」でまとめています。

教師用指導書（朱書）

1～3年 各1冊
本体各6,000円＋税

教科書の紙面に即し、授業に必要な情報を精選して示した「朱書き」教科書

- ・教科書の紙面に即し、授業に必要な情報を精選して記しました。
- ・教材冒頭には、学習指導要領との対応や配当時数、時数に即した授業展開例を簡潔に提示。指導展開の見通しをもつことができ、学習を通して身につける力を意識しながら、授業を行うことができます。
- ・教材文に即して、指導のポイント、語句解説、「学習」（手引き）や漢字・文法の解答例などを朱字で示しました。押さえておきたい箇所を教科書紙面で確認しながら指導できます。

指導事例集 —個性を生かした授業構想のヒント—

1～3年 各1冊
本体各5,000円＋税

教科書教材の幅広い可能性を提案する、個性豊かな授業構想のための指導書

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の本教材について、実践に基づいた指導事例を掲載しました。
- ・地域・学校・学級に応じた多様なニーズに応えるため、学習をより発展させた事例から焦点化させた事例まで、独自性ある指導事例を数多く収録しています。
- ・教師の発問や助言、生徒の反応や発言をできるだけ忠実に収録。
- ・板書例や生徒作品例、ワークシート例など、そのまま活用できる資料を多数掲載。

学習指導書 総説編

1～3年 全1冊
本体6,000円＋税

教科書の全体像と活用の方法を知るための指導書

- ・教科書の編集趣旨、年間指導計画・評価資料などを所収。3年間を見通した国語指導に必携の1冊。
- ・教科書全体の構成とその活用方法について、わかりやすく整理して解説しました。
- ・年間指導計画資料や評価規準を例示し、学習の目的に応じた授業計画の立案に活用できる内容です。
- ・学習指導要領・言語活動例との対照表や、中学校学習漢字・音訓の提出箇所一覧、特別支援教育、色覚特性のある生徒への配慮など、役立つ資料を充実させました。

学習指導書（上・下）

1～3年 各学年2分冊
CD 及び DVD-ROM 付
本体各学年31,000円＋税

基礎・基本を押さえ、国語の力の確実な習得と定着をはかるための必携指導書

- ・全教材の指導目標、教材分析、評価の観点、指導計画と展開例、また、巻末資料「学習を広げる」の活用法について、詳しく紹介しました。

「話すこと・聞くこと」音声CD 教科書の教材内容に沿った生徒の実際の活動場面を収録。

朗読CD 「読むこと」「伝統的な言語文化」に関わる教材の音読・朗読を収録。

DVD 本文テキストや、すべての教材に振り仮名を付した教科書紙面のPDFデータを収録。

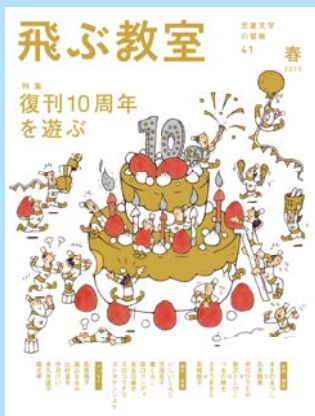
児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行

2015年度は、
復刊10周年
year!

「飛ぶ教室」は、石森延男、今江祥智、尾崎秀樹、河合隼雄、栗原一登、阪田寛夫各氏が編集委員となり、子どもと本と子どもの文化を掘り下げ、総合誌をめざして、一九八一年に発刊した児童文学雑誌です。



第41号(2015春) 特集「復刊10周年を遊ぶ」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-896-5
2015年の春、「飛ぶ教室」復刊10周年を迎えました。41号は、作家・著名人70名が集う“復刊10周年記念号”です。「さんばつやきようこさん」ポストカード付き！



第42号(2015夏) 【編集長シリーズ 第1弾】 特集「五味太郎編集号」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-897-2
常に魅力的な絵本を世に出し続ける絵本作家・五味太郎。そんな五味さんが、「飛ぶ教室」の編集長になりました。五味編集長による極上の“遊び”の42号です。



第43号(2015秋) 【編集長シリーズ 第2弾】 特集「幅允孝編集号 ブックガイド 本と、その先。」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-949-8
人が本と出会うための新しい環境づくりを提案する、ブックディレクター・幅允孝。幅編集長による、読書が閉じたもので終わらないためのブックガイドです。



第44号(2016冬) 【編集長シリーズ 第3弾】 特集「金原瑞人編集号 えっ、詩？ いや、短歌！ それとも俳句？」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-950-4
翻訳家・金原瑞人が編集長として選んだテーマは、なんと詩、短歌、俳句！ これからおもしろくする新しい詩、短歌、俳句に、金原流のスポットを当てます。

- バックナンバーの詳しい内容は、
光村図書ウェブサイトをご覧ください。
www.mitsumura-tosho.co.jp
- ご注文は、お近くの書店、または
オンライン書店でどうぞ。

書写指導の方法

1～3年 全1冊
本体3,500円＋税

- ・ビジュアル版・書写指導の解説書。「筆使いと字形」などの学習要素別に、普遍性のある指導法やポイントを解説しました。
- ・「学習指導書」と合わせてお使いいただくと、より効果的です。

学習指導書 一・二・三年

1～3年 全1冊
DVD-ROM付
本体13,000円＋税

- 【朱書編】教科書の縮刷を掲載し、朱字で教材についての解説、指導のポイント、解答例を記しました。
- 【本編】「総説編」と「研究編」の二部構成で、わかりやすく解説しています。
- 【硬筆ワークシート】教科書の全教材に準拠した硬筆ワークシート。
- 【毛筆原寸大資料】全毛筆教材に対応した原寸大資料。

DVD 教科書紙面・教科書準拠の動画資料や、「硬筆ワークシート」、「毛筆原寸大資料」の全データを収録。

広報課便り

特集「『描写』を読み解く」はいかがでしたか。今回、甲斐利恵子先生の授業を取材して強く感じたのは、「褒める」ということの大切さです。

甲斐先生はどのような場面でも、生徒たちのよいところを見つけて全力で褒めていました。「わあ、すごい。〇〇さんはこんなにかっこいい表現を使っていますよ。皆さんも真似しましょうね」「〇〇さんは、誰も気づかないような点に着目していますよ。見習いたいですね」。そして、「皆さん、〇〇さんの発表でどこがよかった？」と、生徒どうしでよい点を見つけて褒め合う場面もつくっていました。褒められた生徒は、はにかみながらもちょっと誇らしげな様子。そのせいか、教室はいつも温かい雰囲気になっていて、生徒たちは何のためらいもなく、自分の考えや思いを口にしていた。

以前、ある生徒がこんなことを言ったそうです。「甲斐先生の授業では、どんな発表をしても、発表した甲斐があったなあと思う」。

甲斐先生は日頃から、「言葉を学ぶとき、飾ってはい何も得られない。思ったことを素直に表現できる教室にしたい」と話していらっやいます。存分に褒めることで生徒たちの緊張を解き、そのような教室を作られているのだと、今回の取材を通して改めて感じました。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどございましたら、ぜひ広報課までお寄せください。お待ちしております。

FAX : 03-3493-3946
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp